

熊本地震による土砂災害と今後の注意点

本図は 2016 年 4 月 16 日 1 時 25 分頃発生した地震の推定震度分布図（防災科学技術研究所）¹と地すべり地形分布図（防災科学技術研究所）²を重ねて示したものです。一連の地震活動により、熊本県を中心とした広い範囲で強い揺れが何度も観測されました。その結果、阿蘇大橋付近の斜面崩壊など多数の土砂災害が発生しました。

震度 5 強以上の揺れが観測・推定された地域（下図で黄～赤色で示された範囲）などにおいては、今回の地震では土砂災害に至らなくとも、亀裂など地盤の変状が斜面に多数発生している可能性があります。その場合、地盤が全体的に緩んで強度が低下したり、雨水が地中に浸透しやすくなったりするため、土砂災害の危険性が高くなります。また、地すべり地形分布図から読み取れるように、過去には大規模な地すべりも多数発生しています。地すべりには反復性があるため、特に地すべり地形の周辺地域では大規模な土砂災害の危険性が高くなっている可能性があります。

地震は引きつづき発生しており、これ以外の地域でも地盤が緩んでいるかもしれません。梅雨前線や台風による大雨の季節を迎え、九州地方では従来の基準よりも少ない雨量で注意報や警報が出されると思われませんが、山沿いにお住まいの方はもちろん、火山性土砂は水を含むと流動性が高まるため、山沿いから数 100 m 以上離れた場所にお住まいの方も注意をお願いします。

（担当：防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 山田隆二・飯田智之）

・使用した図と注釈： ¹推定震度分布図（<http://www.j-risq.bosai.go.jp/report/>）：トリガ時刻 2016/04/16 01:25, 震源地熊本県熊本地方, マグニチュード 7.1, 最大計測震度 6.4, バージョン 最終報を使用。 ²地すべり地形分布図（<http://lsweb1.ess.bosai.go.jp>）：全国で過去に発生した大規模な地すべり変動（幅約 150 m 以上）の地形的痕跡の分布図。小規模な斜面崩壊や土石流等は表示されていないことに注意。

